

秋田市子ども・子育て支援に関する市民意識調査の概要

1 調査の目的

本調査は、第二次秋田市子ども・子育て未来プラン（子ども・子育て支援事業画）に掲げている施策の中間年度における点検・評価および今後の子ども・子育て支援の検討にあたり、市民の皆様の子育てに関する生活実態やご意見などを基に利用者の視点に立った点検・評価を行うことを目的として実施しました。

2 実施状況

(1) 就学前児童の保護者

- ・調査方法 : 郵送にて配布、回収
- ・対象者数 : 1,060人
- ・回収数 : 596通
- ・回収率 : 56.2%

(2) 小学校児童の保護者

- ・調査方法 : 郵送にて配布、回収
- ・対象者数 : 940人
- ・回収数 : 498通
- ・回収率 : 53.0%

3 調査時期

平成29年6月

4 調査結果

主な設問の回答結果とその内容については、次のとおりです。

【秋田市の子育て環境や子育て支援への満足度】（ ）内は平成25年度調査時

就学前児童の保護者では、「満足度がふつう」が37.1%（42.0%）と最も多く、続いて「満足度が低い・やや低い」が35.5%（17.7%）、「満足度が高い・やや高い」が27.4%（40.3%）となっております。

小学校児童の保護者では、「満足度がふつう」が41.9%（41.2%）と最も多く、続いて「満足度が低い・やや低い」が41.4%（44.3%）、「満足度が高い・やや高い」が16.7%（14.5%）となっております。

前回調査時と比較し、就学前児童の保護者では、満足度が低下し、小学校児童の保護者では、満足度がやや増加した結果となっております。

【子育てに関する不安や負担感】（ ）内は平成25年度調査時

就学前児童の保護者では、「非常に感じる」・「ときどき感じる」割合が79.6%（79.1%）で、前回調査時とほとんど変わらない結果なっています。一方、小学校児童の保護者では、「非常に感じる」・「ときどき感じる」割合は77.5%（71.1%）で、前回調査時より6.4ポイント増加し、不安や負担感をもつ保護者が増加した結果となっております。

【子育てに関する悩みや不安】（ ）内は平成25年度調査時

就学前児童の保護者では、「子育てで出費がかさむこと」が55.0%（35.2%）で最も多く、続いて「子どもを叱りすぎているような気がする」が36.2%（41.9%）、「病気・発達に関すること」が34.4%（29.0%）となっております。小学校児童の保護者でも、「子育てで出費がかさむこと」が最も多く60.4%（35.4%）、続いて「子どもを叱りすぎているような気がする」が37.3%（31.4%）、「子どもの教育に関すること」が36.1%（42.4%）となっております。

【父親の育児や家事への参加について】

就学前児童の父親では、育児や家事への参加について「よくやっている」24.6%、「ある程度やっている」49.4%、「ほとんどしていない」10.2%、「やりたいと思うが時間がもてていない」12.5%、「全くしていない」2.0%、「その他」が1.3%となっております。

小学校児童の父親では、育児や家事への参加について「よくやっている」22.5%、「ある程度やっている」42.9%、「ほとんどしていない」18.3%、「やりたいと思うが時間がもてていない」12.1%、「全くしていない」3.5%、「その他」が0.7%となっております。

また、父親の育児参加を促進するために何が必要と考えるかについて、就学前児童の父親では、「育児参加を促進する行政の支援策」が最も多く59.1%、続いて「育

児参加に対する父親の意識改革」41.8%、「企業における労働条件や職場環境の改善」31.9%となっております。一方、小学校児童の親では、「企業における労働条件や職場環境の改善」が最も多く45.0%、続いて「育児参加に対する父親自身の意識改革」37.6%、「家族間の活発なコミュニケーション」22.1%となっております。

【子どもと外出する際に求めること】

就学前児童の保護者では、「トイレ等におむつ替えの場やベビーキープが設置されていること」が59.4%で最も多く、続いて「小さな子どもとの食事に配慮された場所や設備があること」が56.2%、「親子がくつろげる屋内スペース（キッズルーム、プレイコーナー等）があること」が43.8%となっております。

【子どもの遊ぶ環境について必要なこと】

就学前児童の保護者では、「スポーツや遊びなど体を思いきり動かすことのできる場所があること」が64.1%で最も多く、続いて「施設や設備が安全かつ衛生的であること」が41.3%、「遊び場周辺の道路が安全であること」が34.9%となっております。小学校児童の保護者では、「スポーツや遊びなど体を思いきり動かすことのできる場所があること」が最も多く67.3%、続いて「自宅の近隣に遊び場があること」が36.7%、「施設や設備が安全かつ衛生的であること」が36.7%となっております。

【理想とする子どもの数と実際にもつつもりの子どもの数について】

就学前児童・小学校児童の保護者では、理想として欲しいと思う子どもの数について、「2人」が52.2%と最も多く、次いで「3人」が40.7%、「4人以上」が4.1%、「1人」が3.0%となっております。これに対して、実際にもつつもりの子どもの人数は「2人」が56.7%、「3人」が26.1%、「1人」が13.1%、「4人以上」が4.2%となっております。この結果から理想とする子どもの数と実際にもつつもりの子どもの数とでは乖離が見られました。

実際にもつつもりの子どもの数が理想とする子どもの数よりも少ない理由としては、経済的な負担を理由にあげる回答が最も多く、「大学教育にかかる経済的な負担」が45.0%、「保育所や幼稚園等にかかる経済的な負担」が37.4%、「高等学校教育にかかる経済的な負担」が36.3%となっており、続いて「年齢的に妊娠・出産が難しい」が35.5%、「仕事と子育ての両立が難しい」が35.1%となっております。

【今後、必要だと思う子育て支援のための施策】

就学前児童の保護者では、「保育所や幼稚園にかかる費用負担を軽減する」が69.3%で最も多く、次いで「仕事と子育ての両立や子育てにやさしい活動に取り組む企業が増えるよう働きかける」が48.7%となっています。

小学校児童の保護者も同様に、「保育所や幼稚園にかかる費用負担を軽減する」が44.8%で最も多く、次いで「仕事と子育ての両立や子育てにやさしい活動に取り組む企業が増えるよう働きかける」が43.0%となっています。

なお、回答結果の集計にあたりましては、複数回答の設問の場合、回答数の比率は集計対象者数に対するものであり、合計が100%を超える場合があります。また、自由記述回答については、本集計結果から省略しています。寄せられたご意見は、今後の本市の子ども・子育て支援施策を検討していくにあたって、参考とさせていただきます。